

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月14日
【四半期会計期間】	第22期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)
【会社名】	株式会社トーメンデバイス
【英訳名】	TOMEN DEVICES CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 妻木 一郎
【本店の所在の場所】	東京都中央区晴海一丁目8番12号
【電話番号】	03(3536)9150(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 松本 和幸
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区晴海一丁目8番12号
【電話番号】	03(3536)9150(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 松本 和幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第21期 第3四半期 連結累計期間	第22期 第3四半期 連結累計期間	第21期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(百万円)	117,700	106,486	151,426
経常利益(百万円)	3,192	1,952	3,918
四半期(当期)純利益(百万円)	1,892	1,218	2,374
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,871	1,141	2,353
純資産額(百万円)	21,057	22,600	21,539
総資産額(百万円)	55,968	50,814	46,970
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	278.26	179.08	349.07
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	37.6	44.0	45.9

回次	第21期 第3四半期 連結会計期間	第22期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	76.20	48.20

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、当第3四半期連結累計期間における、各セグメントに係る主要な関係会社の異動は次のとおりであります。

(日本)

主要な関係会社の異動はありません。

(海外)

平成24年4月27日にATMD(Hong Kong) Limitedの資本金の払込を完了し、連結子会社が1社増加しました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、欧州が債務問題の悪影響で景気が緩やかに後退しており、中国経済もウエイトの高い欧州向けの輸出が落ち込んでいることに加え、素材や建設機械など幅広い分野で在庫調整圧力が働いていることから、なお減速した状態が続いています。NIEs、ASEAN経済についても、欧州経済の後退や中国経済の減速の影響を受けて、企業部門を中心に持ち直しの動きが緩やかになっています。

わが国経済については、海外経済の減速した状態が続いていることから、輸出や鉱工業生産が減少しており、企業の業況感は製造業を中心に慎重化しています。輸出面を見ると、欧州、米国向けは電子機器を中心に減少が続いており、中でもデジタルカメラは大幅な減少となっています。東アジア向けは、スマートフォンの新商品向け部品を中心に、小幅ながら増加しているものの、日中関係の影響もあって、全体としては弱めの動きとなっています。

エレクトロニクス業界におきましては、テレビやパソコンの販売が低調である一方、スマートフォンやタブレット端末、節電機能に優れた白物家電等が堅調であり、全体では、振れを伴いつつも、横ばい圏内で推移しました。

このような状況下、当社グループは、成長アプリケーションであるスマートフォン向けに、有機EL及びメモリー、タブレット端末向けにドライバーICの拡販と中国市場の開拓にそれぞれ注力しましたが、テレビやパソコンの需要の低迷とそれに伴うDRAM価格の下落、デジタルカメラの販売不振、そして中国経済の減速等もあり、売上高1,064億86百万円（前年同期比9.5%減）、営業利益14億53百万円（前年同期比47.4%減）、経常利益19億52百万円（前年同期比38.8%減）、四半期純利益12億18百万円（前年同期比35.6%減）となりました。

また、当第3四半期連結累計期間のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### (日本)

スマートフォン等の移動体通信機器、タブレット端末は好調であったものの、テレビ、ブルーレイディスクレコーダー及びデジタルカメラ等のデジタル家電需要は低調であり、PC需要もWindows8効果が期待されたものの、販売台数は伸びず、このセグメントの売上高は864億55百万円（前年同期比10.3%減）、セグメント利益19億67百万円（前年同期比5.6%減）となりました。

#### (海外)

海外におけるテレビ向け液晶デバイスの売上が、価格面等で競争が激化したことにより苦戦を強いられたため、このセグメントの売上高は312億12百万円（前年同期比19.7%減）、セグメント損失1億5百万円となりました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因は以下のとおりであります。

- ・ 市場における半導体需給（価格）の変動及び価格競争の激化
- ・ 急激な為替の変化
- ・ 金利の動向
- ・ 仕入先及び取引先の業界における競争力
- ・ デジタル家電メーカーを中心とした、事業の「選択と集中」による合従連衡の動向
- ・ 震災等の災害

わが国の経済の見通しですが、当面横ばい圏内となったあと、国内需要が各種経済対策の効果もあって底堅く推移し、海外経済が減速した状態から次第に脱していくにつれて、緩やかに回復していくと考えられています。

エレクトロニクス業界においては、Windows 8 による買い替え需要は期待されていたほど伸びず、スマートフォン、タブレット向けの電子部品需要も一服する見込みです。一方、DRAMは各メーカーの減産効果もあり、価格が安定化に向かうと期待されています。

このような環境下、当社グループは、顧客と仕入先の双方の要望に細かく対応し、信頼関係を一層強化し、市場追従のみならず市場の開拓も併せて行い、新規受注及び安定供給に取り組んでまいります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、508億14百万円（前連結会計年度末比8.2%増）となりました。これは主に、受取手形及び売掛金と商品が増加したことによるものです。一方、負債は282億13百万円（前連結会計年度末比10.9%増）となりました。これは主に短期借入金の増加によるものです。純資産は226億円（前連結会計年度末比4.9%増）となりました。これは四半期純利益及び少数株主持分の計上が主な増加要因であります。

当社グループの主な資金需要は、商品の購入代金と人件費等の販売費及び一般管理費の支払によるものであります。これらの資金需要に対し、主として金融機関からの借入により調達しておりますが、借入期間は、返済期限が一年以内に到来する短期借入金で、主な通貨は日本円であります。

また、売上債権の流動化の枠組みを構築し、調達手段の多様化も図っております。なお、当社は運転資金の機動性を確保するため、取引金融機関と100億円の貸出コミットメントライン契約を締結しております。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,000,000
計	18,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所名又は登 録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	6,802,000	6,802,000	東京証券取引所市場第一部	単元株式数 100株
計	6,802,000	6,802,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年 月 日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	6,802,000	-	2,054	-	1,984

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,801,100	68,011	-
単元未満株式	普通株式 600	-	-
発行済株式総数	6,802,000	-	-
総株主の議決権	-	68,011	-

(注)「単元未満株式」の欄には、当社所有の株式が81株含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社トーメンデバイス	東京都中央区晴海一丁目8番12号	300	-	300	0.00
計	-	300	-	300	0.00

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

退任役員

役名	氏名	退任年月日
取締役	馬場 久雄	平成24年12月31日

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	790	1,541
受取手形及び売掛金	32,937	35,139
商品	10,081	12,059
繰延税金資産	150	202
その他	2,065	1,001
流動資産合計	46,026	49,945
固定資産		
有形固定資産	71	59
無形固定資産	235	195
投資その他の資産	636	612
固定資産合計	943	868
資産合計	46,970	50,814
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	5,862	5,583
短期借入金	13,509	18,736
未払法人税等	395	81
賞与引当金	117	56
未払金	5,061	3,094
その他	203	381
流動負債合計	25,149	27,934
固定負債		
退職給付引当金	226	242
その他	54	37
固定負債合計	280	279
負債合計	25,430	28,213
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,054	2,054
資本剰余金	1,984	1,984
利益剰余金	17,565	18,443
自己株式	0	0
株主資本合計	21,602	22,480
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15	54
繰延ヘッジ損益	20	98
為替換算調整勘定	27	8
その他の包括利益累計額合計	63	143
少数株主持分	-	263
純資産合計	21,539	22,600
負債純資産合計	46,970	50,814



(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	117,700	106,486
売上原価	113,446	103,330
売上総利益	4,254	3,155
販売費及び一般管理費	1,488	1,701
営業利益	2,765	1,453
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	7	7
仕入割引	295	280
為替差益	277	341
その他	4	5
営業外収益合計	585	636
営業外費用		
支払利息	75	69
債権売却損	27	32
支払手数料	26	14
その他	29	21
営業外費用合計	158	137
経常利益	3,192	1,952
税金等調整前四半期純利益	3,192	1,952
法人税等	1,299	747
少数株主損益調整前四半期純利益	1,892	1,205
少数株主損失( )	-	12
四半期純利益	1,892	1,218

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,892	1,205
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	36	39
繰延ヘッジ損益	19	77
為替換算調整勘定	4	52
その他の包括利益合計	20	63
四半期包括利益	1,871	1,141
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,871	1,137
少数株主に係る四半期包括利益	-	3

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(1) 連結の範囲の重要な変更

平成24年4月27日にATMD(Hong Kong) Limitedの資本金の払込を完了しましたので、第1四半期連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 当社は、資金調達の機動性確保等を目的として、金融機関4行とコミットメントライン設定契約を締結しております。コミットメントラインに係る借入未実行残高等は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
コミットメントラインの総額	10,000百万円	10,000百万円
借入実行残高	-	-
借入未実行残高	10,000	10,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	59百万円	55百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月22日 定時株主総会	普通株式	340	50	平成23年3月31日	平成23年6月23日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	340	50	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	日本	海外	合計
売上高			
外部顧客への売上高	79,072	38,627	117,700
セグメント間の内部売上高又は振替高	17,295	244	17,540
計	96,368	38,872	135,241
セグメント利益	2,084	687	2,772

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,772
その他の調整額	6
四半期連結損益計算書の営業利益	2,765

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	日本	海外	合計
売上高			
外部顧客への売上高	75,515	30,970	106,486
セグメント間の内部売上高又は振替高	10,940	242	11,182
計	86,455	31,212	117,668
セグメント利益又は損失( )	1,967	105	1,862

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,862
セグメント内取引消去	417
その他の調整額	8
四半期連結損益計算書の営業利益	1,453

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	278円26銭	179円8銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	1,892	1,218
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,892	1,218
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,801	6,801

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月8日

株式会社トーメンデバイス  
取締役会御中

### あらた監査法人

指定社員 公認会計士 山本 昌弘  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 大橋 佳之  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社トーメンデバイスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社トーメンデバイス及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。